

## 学校関係者評価委員会の会議録

会議名	第4回学校関係者評価委員会
開催日時	令和5年5月11日（木）午後1時から午後3時30分
場 所	弘前厚生学院 記念館「小集会所」
出席者 ※敬称略	1. 委員定員5名 1. 出席委員（計4名） 福井敏隆（委員長）、平沢一臣、大浦雅勝、小山加世子 2. 学院側出席者（計2名） 学院長 鳴海春輝、事務局長 大森寛
欠席者	工藤洋司（委任状提出）
配布資料	令和4年度自己評価結果表、自己評価に伴う自由記述の取りまとめ 卒業進路状況報告書、直近5ヶ年の入学生状況報告書、
授業視察	今回、福井委員長の提案により、参加委員が会議の前にこども学科1年、 2年、介護福祉科の授業視察を行った。
委員長 挨拶	福井委員長が挨拶を行った。
会議の内容 ※要点記録	今回実施した授業視察も踏まえ下記の意見が述べられた。  (福井委員長) ①教室を暗くしてでスクリーン投影しているが、学生がノートを記述する際に手元が暗いので手元ライトを利用した方が良い。 ②今年度も学生数が減少していることが残念だ。 ③諸処の事情により問題行動がある学生に対しては、外部カウンセラー等にも協力お願いして、お医者様でなければ診断できないので、受診したうえで、学校、保護者と学生で協力して対応していくことが望ましい。医療機関における診断は、何よりも学生本人にとって大切だ。  (大浦委員) ①各教室のパソコン、電子ピアノの配置など教育設備の課題については、予算が乏しい中で改善されている。 ②入学生の確保については、数年後に県内の18歳人口が1万人を下回ることから深刻な課題だ。 ③就職の動向は、全産業で売り手市場で好調のようだが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、公務員やサラリーマンが人気だ。

会議の内容  
※要点記録

- ④企業側としては、雇用難の世情の対策として新規採用が期待できないので、在勤者に処遇を手厚くするなどして対応した方が合理的ではないかと感じる。
- ⑤本学院の学生についても、個々に学習の得意、不得意もあると思うが、周囲から「頼りにされている」と実感できるような居場所を作ってあげると良い。
- ⑥保育や介護福祉の分野では、人材確保が重大な課題となっている。
- ⑦今後大学や専門学校等でも、スクールカウンセラーの常時配置が必要なると思う。

(平沢委員)

- ①深浦町では、人材不足が一層深刻化している。  
現に当施設でも、職員の高年齢化が深刻な課題となってきている。
- ②①に対応していくために、当施設ではICT化を進めている。
- ③業務の近代化に対応できるような、職員の諸技術の向上にも注力している。また、県の方でも事故防止等の観点からも予算を確保している。

(小山委員)

- ①昨年度の会議の際に話題となった、問題行動のある学生の対応については、学生や教員方は大丈夫でしたか？
- ②保育の現場でも、同様の事案が深刻であり、園児、保護者、施設職員の適切な連携が一層大切だと感じている。
- ③②の適切な対応にあたっては、何より本人のためにも医療機関での診断が必要だと思う。

(鳴海学院長の散会のご挨拶)

本日は、皆様ご多用中のところご参集の上貴重なご意見を拝聴させていただきありがとうございました。本学院では、世情により厳しい運営状況ではございますが、皆様のご意見を踏まえ引き続き努力してまいります。